

## 7 番（小川義昭君）

今、総務部長から答弁がありました。私の言っておる見直し方針と都市計画マスタープランとの整合性の意味合いがちょっと違います。これについては、8番目以降の質問について後でまた答弁を求めたいと思います。

それでは、8番目の質問に入ります。

以上、公共施設見直し方針に係る公共施設の適正化に向けた取り組みについて、私なりに3つの視点から検証し、市の考え方、見解を求めたところであり、ここで改めて白山市公共施設マネジメント白書の策定を提案いたします。

公共施設の見直しは、本市が実施している事務事業の有効性と合わせ、計画的な施設の再整備や長期的視点からの改修計画、維持管理計画の検討など公共施設の利用実態、コスト面などの現状をより詳細に懇切丁寧に積極的に市民の皆さんに公開し、市民と行政が公共施設の存続、統廃合の判断、運営体制の見直しなどの議論を共有化し、今後の公共施設のあり方について幅広く議論を進めることが重要かと考えます。そのためにも白山市独自の白山市公共施設マネジメント白書の策定が急がれます。

この白書の作成に当たっては、先ほど来質問いたしました本市の公共施設の建築年、面積、構造など建築物の保安全管理に必要な静的な情報だけでなく、施設の管理運営に要するコスト、利用状況といった動的な情報も含め、データの把握や公共施設間の比較を可能にすることで、市民と行政が施設の存続・統廃合の判断、運営体制の見直しなどの議論を共有化して、公共施設の更新の優先順位、再配置計画の検討を行うとともに、そのデータブックとなる白書になるものであります。

特にその作成に当たっては、本市の自治基本条例においても明文化されておりますように、市民へのわかりやすさが第一です。今後の施設の見直しのための判断材料とするためにアンケート調査やパブリックコメントの実施に加え、行政懇談会、あるいは地域座談会などの実施により市民の意識を反映するものとします。

こうした情報公開こそが市民、議会、行政で問題意識の共有が図られ、市民主体の協働のまちづくりの実現につながるものだと思います。

行財政の早い効率化を求めたいという市長のお気持ちは理解できます。職員にもはやる心があるでしょう。しかし、単純にコスト削減だけでうまくいくものではないと思います。コスト削減を行うに

は、市民の皆さんの意見を十分に聞くというプロセスを踏まないとうまくいかないのではないのでしょうか。

先般、市長からいただいた「ハコモノが地方を潰す、あなたの街の時限爆弾」、こういう記事です。これにも浜松市や秦野市を初めとした先進都市では、公共施設マネジメント白書などを策定し、市民とともにその活用が図られていると載っています。昨日の新聞紙上には、「数字で判断できない現場はいけないが、数字しか見ないやつは一番、いかん」とありました。世界に冠たる効率生産方式を確立した日本巨大企業の特別フォーラムで言及された先人の言葉であります。

ぜひとも早急に白山市公共施設マネジメント白書を策定し、市民の皆さんが納得いくような協働のまちづくりの実現を目指したいものです。市長、答弁をよろしくお願いいたします。